

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について【案】

令和7年9月24日  
枚方市立田口山小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校児童の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

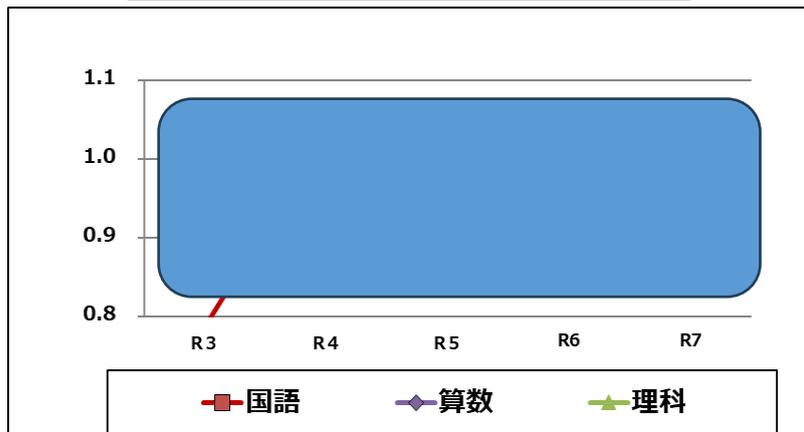
## ※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

## 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率（対全国比）をお知らせします。

### （全国の平均正答率を1とした経年比較）



令和7年度 平均正答率 対全国比		国語	数学	理科
田口山	小学校			

※対全国比については、ホームページやブログ等で公開する際は、非公開とします。（保護者の皆様にもお知らせします。市教委の見解によるものです。）

## <学力調査結果の概要>

### ○国語について

→昨年度よりも平均正答率は下回りましたが、学習指導要領の6つの領域（\*1）で見ると、[思考力、判断力、表現力]の「A話すこと・聞くこと」の領域において、3問中2つの設問で全国平均正答率を4.3ポイント、5ポイント以上と上回る結果が見られました。しかし、[知識及び技能]の「(1)言葉の特徴や使い方に関する項目（漢字）」や「(3)我が国の言語文化に関する事項に関する事項（文法）」の設問においては、全国平均正答率を大きく下回り、課題が残る結果となりました。

\*1 国語科 学習指導要領の6つの領域区分

[知識及び技能]

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項

[思考力、判断力、表現力等]

A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

### ○算数について

→昨年度よりも平均正答率が大きく下回る結果となりましたが、学習指導要領の5つの領域の「図形」の設問では、角の大きさについてや図形の面積の求め方についての設問において全国平均正答率を上回る結果が見られ、一定の成果は出ていることがうかがえるものの、「数と計算」の領域では基礎的・基本的なことを問う設問（分数のたし算）において、低い正答率にとどまり、国語と同様に[知識及び技能]の観点において大きな課題が残る結果となりました。

\*2 算数科 学習指導要領の5つの領域区分

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」

### ○理科について

→全体の平均正答率は全国の値を下回ったものの、平均正答率が全国を上回った問題が17問中7問ありました。また、学習指導要領の「地球」を柱とする領域の問題では、6問中多くの設問で全国平均正答率を上回る正答率が出る結果が見受けられました。しかし、理科においても[知識及び技能]の観点において、学習内容の具体的な知識や、それを学習した上で目的に応じて活用することに課題が見られる結果となりました。

\*3 理科 学習指導要領の4つの領域区分

A区分「エネルギー」「粒子」を柱とする領域 B区分「生命」「地球」を柱とする領域

# 国語科において成果・課題があった設問

## 【成果が見られた設問】

◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるがどうかを見取る設問

- 1 自分が知りたいことをより具体的に知るため。
- 2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。
- 3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。
- 4 相手が伝えたいことの内容を明確にするため。

【インタビューの様子(一部)】

小森さん 私たちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、岡さんの仕事について調べています。

岡さん はい、岡さんの仕事について調べています。どうぞよろしくお願います。

小森さん はじめに、バスの運転士として岡さんが大切にしていることを教えてください。

岡さん バスはたくさんの人を乗せていますから、やはり、安全に目的地までお送りすることを大切にしています。

小森さん 安全に運転することは大事なことですね。安全に運転するために、例えばどのようなことを心がけているのですか。

岡さん 心がけているのは、運転中に眠りすぎないようにすることです。あわててしまうと、大きな事故につながりかねないので、落ちついて運転するようにしています。それに、バスの安全を守っているのは運転士だけではないんですよ。

小森さん えっ、そうなんですか。運転士のほかにどんな人がいるのですか。

岡さん 出発する前に、自分でもバスの点検をしますが、整備士も定期点検をしています。そのほかに、私たち運転士の健康状態を確認するなど、安全な運行を管理する人もいます。

小森さん なるほど、たくさんの方が、乗客の安全を支えてくださっているんですね。私たちは時間を守ることも大切なことだと思いました。私たちが思っていた以上に安全を第一に考えてくださっていることがわかりました。

清川さん バスの安全な運行のためには、大変なこともあると思いますが、いかがですか。

〇 (インタビューが続く) 〇

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子(一部)」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

1 三(1)	正答率	無回答率
本校	77.3 %	1.5 %
全国	71.8 %	0.6 %

### 〈考察〉

聞くことにおいて、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどのような情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くことが大切です。小森さんは、働くことについて考えるために、バスの運転士から「仕事で大切にしていること」を引き出そうとしており、バスの運転士の岡さんの「安全に目的地までお送りすることを大切にしています。」という答えに対して、安全に運転するために心がけていること的具体例を引き出そうとしていると捉えることが求められていました。これは、**普段から「なぜ」「どうして」そう思ったのか、考えたのか等の根拠を明確にしながら自らの考えを深めていくことを大切に授業を行ってきたことの成果**の表れだと考えます。

## 【課題が見られた設問】

◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見取る設問

【資料1】

文化庁調査「文化庁調査 文化庁調査の取組(1)について(日本版)」による。

【資料2】

文化庁調査「文化庁調査の取組(1)について(日本版)」による。

【資料3】

文化庁調査「文化庁調査の取組(1)について(日本版)」による。

【資料4】

文化庁「令和4年度国語に関する世論調査」による。

「商標権」の意識のあらわ

年代	16-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
「商標権」の意識のあらわ	50.4	53.5	53.7	52.8	61.2	70.8	56.2
「商標権」の意識のあらわ	31.9	32.9	34.1	32.4	28.5	33.6	39.8

○ 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。  
 ○ なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

3 三(2)	正答率	無回答率
本校	40.9 %	25.8 %
全国	56.3 %	16.2 %

### 〈考察〉

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再編成したりすることが重要です。必要な情報は、目的に応じて変わることから、ここでは、何に対して聞かれているのか、何を答えればよいのかなど、読む目的を明確にすることが大切です。誤答を見ると、「あなたが、木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件(2つ)に合わせて書きましょう。」と、問われているのに対し、2つの**条件を満たしていないものが多く見られました**。また、**無解答率が高いこと**から、**粘り強く考え、解答することができていない実態**も見受けられ、課題の残る結果となりました。

# 算数科において成果・課題があった設問

## 【成果が見られた設問】

◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかを見取る設問

4

保健委員のあさひさんは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



あさひ ハンドソープが空になるまで使ったら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先端をうすまでしっかり押さえることです。」  
「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることになります。」



(1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープが空になるまで使ったら、何プッシュすることができるのかを考えています。



保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240mL入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が240mL入っています。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240mLの他に何が必要でしょうか。

下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア | プッシュ分のハンドソープの液体の量 3 mL
- イ | プッシュするときにおおきさ 2 cm
- ウ | あさひさんが1日にプッシュする回数の平均 8 回
- エ | あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 60 秒

4 (1)	正答率	無回答率
本校	77.3 %	9.1 %
全国	82.8 %	2.6 %

## 〈考察〉

この設問は日常生活において既習事項を活用しながら問題解決を行うことをねらいとしています。ここでは、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見出し、それらの数量の関係を把握して、問題解決の見通しをもつことが大切です。新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、どのような数量が必要であるかを判断する必要があります。これは、**日々の学習の中で、自分の考えを図(絵)や表・式・言葉を用いながら根拠をもって問題解決に取り組んできた**ことが、一定程度示されたものと考えます。

## 【課題が見られた設問】

◎数直線で、1の目盛りにちやくもくし、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかを見取る設問(3)

◎異分母の分数の加法の計算をすることができるかを見取る設問(4)

3

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



(4)  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$  を計算しましょう。

	設問	正答率	無回答率
本校	3 (3)	13.6 %	12.1 %
全国		35.0 %	7.8 %
本校	3 (4)	54.5 %	15.2 %
全国		81.3 %	4.1 %

## 〈考察〉

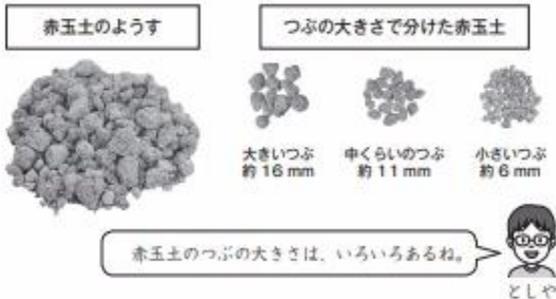
算数科の学習では、数の表し方の仕組みや数の構成する単位に着目し、計算の仕方を統合的・発展的に考察することが重要です。(3)では、数直線上で、1目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるか問われていました。ここでは、0から1までを3等分した目盛りの1つ分の大きさは $\frac{1}{3}$ であることを見出し、目盛りが表す数を $\frac{1}{3}$ の幾つ分として考える必要がありました。また(4)では、異分母の分数の足し算の際には、分母の最小公倍数である6を用いて通分してからでないとい計算ができないことを踏まえて計算する必要がありました。分数の学習は2年生から小数の学習は3年生から始まりますが、**これまでの学習において、その時は理解していても既習内容が十分に定着していない**ことが、この平均正答率からも見受けられ、大きな課題が残る結果となりました。

# 理科において成果・課題があった設問

## 【成果が見られた設問】

◎赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現できるかどうかを見取る設問

1 としやさんとあかりさんは、学校の花だんに入れた、赤玉土という土を見て、気づいたことを話しています。



あかり 「水のしみこみ方は、土のつぶの大きさによってちがいがあある」ということを学習したけれど、赤玉土でも同じなのかな。水がしみこむ時間で比べてみよう。

あかりさんたちは、次のような【問題】を調べることにしました。

【問題】  
水のしみこみ方は、赤玉土のつぶの大きさによって、ちがいがああるのだろうか。

あかりさんたちは【問題】を、大きいつぶと小さいつぶの赤玉土で確かめる【方法】について考えました。

【方法】

- ① どう明なプラスチックでできた2つの同じコップに次のことをする。  
・4つの穴を同じようにあける。  
・同じ高さの線を図のように引く。  
これらを穴あきのコップA、Bとする。
- ② 土をふくろから取り出し、次のように入れる。  
・コップAは大きいつぶの赤玉土  
・コップBは小さいつぶの赤玉土
- ③ コップAに水をすばやく入れ、時間をはかり始め、水の面が同じ高さの線に下がるまでの時間をはかる。コップBも同じようにして時間をはかる。
- ④ 受け皿にたまった水、コップの土や水をすべて出し、②③を全部で3回行う。

(1) 上の【方法】で、コップAの条件を下の通りにしたとき、コップBの条件(赤玉土の量と水の量)は、どのようにすればよいでしょうか。下の(ア)と(イ)の中にあてはまる数字を書きましょう。

	つぶの大きさ	赤玉土の量	水の量
コップAの条件	大きい	300 mL	250 mL
コップBの条件	小さい	(ア) mL	(イ) mL

1 (1)	正答率	無回答率
本校	84.8 %	3.0 %
全国	79.5 %	2.5 %

〈考察〉  
この設問では、コップAを「赤玉土の量」300ml、「水の量」を250mlとしています。条件を正しく設定した観察・実験では、変える条件(調べたいこと)を1つの要因にし、残りの要因を変えない条件として、制御した実験を計画することが大切です。これは、**普段の観察・実験において条件制御の考え方が、多くの児童が理解しながら、今はどの条件に目を向けながら観察・実験を行うことが必要なのかを理解し、学習を進めることができている成果が結果として表れている**と考えます。

## 【課題が見られた設問】

◎水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかを見取る設問 (2)イウ

◎水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかを見取る設問 (2)エオ

4 ひろみさんたちは、水のすがたに関する学習をまどめています。

Aで、液体の水は温められて、ふっとうしている。  
Bで、水蒸気は冷やされて、湯気になっている。  
Cで、湯気は(イ)で、(ウ)になっている。  
Dで、(ウ)は(エ)で、(オ)になっている。  
以上のように、水は温度によって、すがたを変える。

2) 左の図の(イ)から(オ)の中にあてはまるものを、下の1から12の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。

- (イ) 1 蒸発し  
2 ふっとうし  
3 温められ
- (ウ) 4 水蒸気  
5 液体の水  
6 水
- (エ) 7 蒸発し  
8 温められ  
9 冷やされ
- (オ) 10 水蒸気  
11 液体の水  
12 水

	設問	正答率	無回答率
本校	4 (2)イウ	66.7 %	0.0 %
		64.2 %	1.3 %
全国	4 (2)エオ	42.4 %	1.5 %
		57.5 %	1.5 %

〈考察〉  
(2)イウでは、液体の水である湯気が見に見えない気体(水蒸気)に変化していることを正しく捉える、(2)エオでは、水蒸気が氷と水の入ったコップに冷やされ液体の水に変化していることを正しく捉えているかを問われており、水の蒸発や結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付けながら適切に表現することが求められていました。(2)イウの解答を見ると、半数以上の児童が「水を温めると沸騰し、水蒸気が発生する。その水蒸気が空気中で冷やされて湯気として目に見える」ことは理解できているものの、(2)エオの誤答を見ると「蒸発し・水蒸気」や「あたためられ・液体の水」のような誤答が多く見られ、理科において**学習する知識や科学的な言葉、概念、事象、根拠が十分に理解できていない実態も見受けられ、課題の残る結果となりました。**

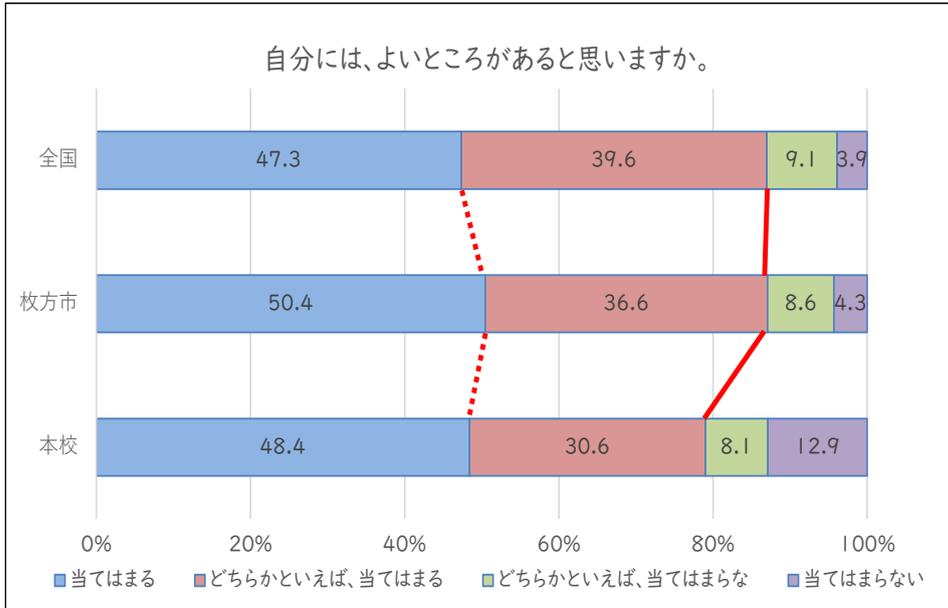
## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

### 【成果が見られた項目】

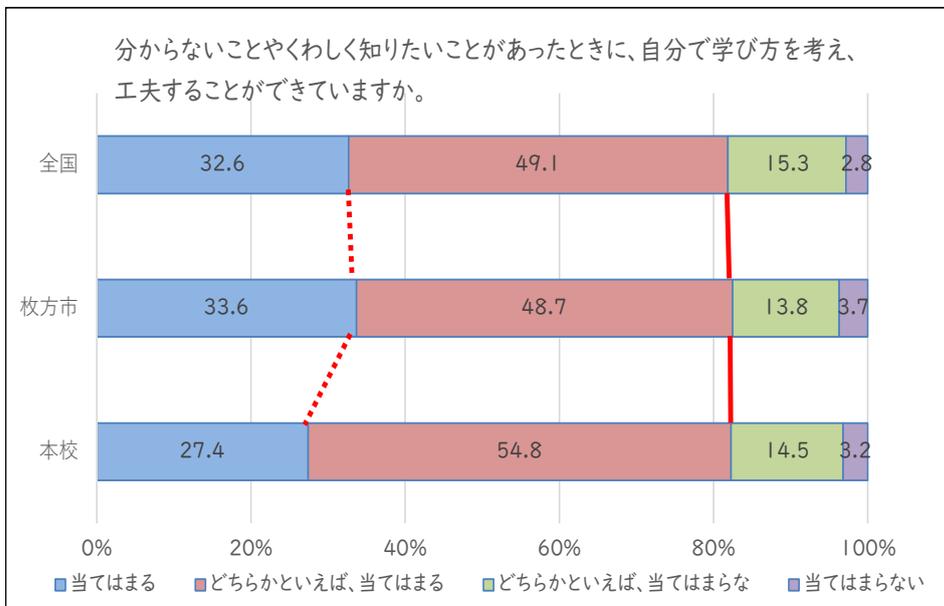
◎自分には、よいところがあると思いますか。



### 〈考察〉

自己肯定感の項目では、肯定的回答の割合が昨年度よりも19ポイント上回る結果となりました。本校では、これまで自己肯定感を育むことを課題の1つとして、**児童一人ひとりの結果を重視しながらも、その過程（取り組む様子や活動する様子）を大切にしながら取組を進めてまいりました。**また、学校生活だけではなく、それぞれのご家庭でも、子どもたちに様々なお声かけをしていただいた結果が、今回の結果につながったと考えます。この結果に満足することなく、今後も引き続き子どもたちの自己肯定感を育ていけるよう、ご協力をお願いいたします。

◎分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



### 〈考察〉

強い肯定的回答は、27.4ポイントにとどまるものの肯定的回答は82.2ポイントと、決して悪い結果ではありませんでした。これは、昨年度から「探究的な学習」を**校内研究の柱に総合的な学習の時間に取り組んできた成果が出ていると考えます。**今年度は「探究的な学習」に「PBL学習」の要素を加えながら、次のような力を育てることをめざしています。

- 1、子ども自身が「問い」を立てる。（課題の設定）
- 2、教科の枠をこえて「学び」をつなげる。
- 3、実際に調べたり、体験したりしながら学ぶ。  
（情報の収集）
- 4、自分の考えを表現し、他者と意見を交換する。  
（整理・分析）（まとめ・表現）

これらの学習を通して、身近な課題をテーマに、自分たちで調べ、考え、話し合い、まとめ、発表する力を育ててまいります。

# 分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

## (1) 授業改善について

本校の今年度の校内研究のテーマである『主体的に取り組む児童の育成 ～目標を達成するためにシンキングツールを活用し、学びを深める授業づくり』をめざし、シンキングツールを活用しながら、自分の考えを整理し、考えをまとめられるように指導しております。また、授業の中で「一人ひとりに合った学び(個別最適な学び)」や「友だちとともに学び合う学び(協働的な学び)」をバランスよく取り入れながら、授業を行い、子どもが主役の学習活動に取り組んでまいります。そして、授業の最後には振り返りを行い、児童一人ひとりが、この時間にどのようなことを学んだのか、学ぶことができたのか、今日の学習を受けてさらなる疑問等をメタ認知できるようにすることで、1つ1つの学びを深められるよう取組を進めてまいります。

また、国語・算数・理科の教科において【知識及び技能】の面に課題が見られることから、全職員で共通認識を持ちながら、授業中や朝学習、家庭学習、隙間時間等を活用し、必要な知識を十分に定着させるとともに、既習内容を活用しながら課題解決していく機会を意識的に設け、【知識及び技能】の定着をめざしてまいります。

## (2) 家庭学習について

家庭学習の充実に向け、児童が自分の学びを自己調整できるよう、宿題の出し方や自主学習の取組方を工夫しています。具体的には、普段の漢字ドリルや計算スキル、音読等はもちろんのこと、タブレットを活用し、navimaやその他のアプリを使いながら復習(予習)を行い、ロイロノートの共有ノートや提出物を共有できる機能を活用し、友だちの学習を見て参考にできるようにする方法を取っています。また、3年生以上の学年では自主学習に取り組み、児童一人ひとりが主体的に学びを進められるようにしており、その学んだこと(自主学習)をクラスで交流したり、校内に掲示することで、次に自主学習に取り組む参考や意欲につなげているところです。

## (3) 基本的な生活習慣の向上について

児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、学校では様々な教科・学校生活を通して、児童に必要な生活習慣について指導を行っております。令和7年度学力・学習状況調査(質問紙)の生活習慣に関わる項目の回答を見ると、肯定的回答が多く見られ、昨年度よりも児童の生活習慣が改善されていることがうかがえます。引き続き、ご協力をお願いいたします。

